

平成30年度 比叡山中学校 学校評価

平成30年度
重点目標

- 1) 中高一貫教育を進める中で「掃除・挨拶」を徹底し、「朝礼」の充実を図り校訓の具現につとめ、合わせて道徳的素養を身につけさせる。
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、学習習慣づくりをサポートし、自ら学習しようとする力を育てる。
- 3) 日々のホームルーム活動・部活動、体験学習等を通じて、生徒のコミュニケーション能力を育てるとともに、自主自立・自律を促す。
- 4) 「部活動に係る活動方針」を策定し、その適切な運営をはかる。
- 5) 学校図書教育の充実をはかり、その発信力を高める。授業と図書室の接点をはかる。
- 6) 特別支援教育の視点を共有しつつ、生徒・教師の人権意識の向上をはかる。人と人との絆を深め、差別やいじめ・体罰を許さない学校づくりにつとめる。
- 7) 懇談会の充実や学年通信を通じて、保護者との連携をはかる。
- 8) 個々の教員及び教員集団としての資質・能力・指導力の向上をはかる。A L (アクティブラーニング)の推進やICT教育の研究と展開、グローバル教育の充実。
- 9) 中高同一敷地に向けて、新しい学校づくりへの体制整備を進める。
- 10) 積極的な入試広報活動につとめる。

領域	評価項目	中間評価	年度末評価	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	・学校の教育方針や教育目標、教育活動について理解が得られるように説明している。	A	A	A
	・学校の教育方針や教育目標が実現できるよう具体的な取り組みを進めている。	B	A	A
2 学習指導	・基礎学力充実のため、学習習慣を身につけて、自ら学習する力を育てている。	A	A	A
	・家庭学習の習慣を身につける指導を行っている。	A	A	A
3 生徒指導	・掃除・挨拶を中心に、基本的な生活習慣の確立に向けた効果的な指導に努めている。	A	A	A
	・規則や規律を守る指導が適切に行われ、社会の一員としての意識を高める取り組みができています。	A	A	A
4 進路指導	・6年間を見通した個々の能力・資質の伸長につながる進路指導を系統的に行っている。	A	A	A
	・進路に関する情報や資料の収集、およびそれらの提供が適切に行われている。	A	A	A
5 特別活動	・部活動の活性化を図るとともに自主・自律を促し、心身ともに成長できるように指導をしている。	A	A	A
	・体育祭・文化祭をはじめ、生徒会活動やHR活動が活発に行われている。	A	A	A
6 学校図書室	・生徒に必要な本や資料を提供し、図書室の利用を促進するように努めている。	A	B	A
	・図書のおもしろさ、大切さに気づかせる指導に努めている。	A	B	A
7 保健・安全指導	・日常の健康観察に努めるとともに、病気や怪我に対し適切な処置ができています。	A	A	A
	・保健室だよりなどの情報提供により、健康・安全に対する意識の向上に努めている。	A	A	A
8 人権教育	・個々の生徒が互いの人権を尊重し、「いじめ」のない集団づくりに努めている。	A	A	A
	・校内人権デーなどを通して、生徒の人権意識を高める指導に努めている。	A	A	A
9 環境教育	・環境について考えさせ、リサイクル運動やペットボトル・パックの後始末をしっかりとさせる指導を行っている。	A	A	A
	・清掃活動に意欲的に取り組み、トイレや教室を美しく保つ指導を行っている。	A	A	A
10 事務・管理	・教育活動に必要な備品、消耗品についての整備がなされている。	A	A	A
	・個人情報の管理を含め、文書管理を適切に行っている。	A	A	A
11 その他 学校の取り組み	・朝礼及び訓話を通じ、生徒の精神的な成長を促す取り組みが行えている。	A	A	A
	・クラス担任や学年主任が中心になって、保護者と連携がとれている。	A	A	A
	・学校生活の様々な場面で、いじめの防止および早期発見のための取り組みが適切に行われている。	A	A	A
	・教育相談体制が整備され、個々の事例に対して適切に対応できている。	A	A	A
	・ホームページ等を活用し、教育活動・学校案内についての情報発信に努めている。	A	A	A

7月 学校目標に基づいた評価項目の公表
 評価表の見方 10月 中間評価の公表(9月までの教育活動に対する中間評価)A・B・C・Dの4段階で示す。
 3月 総合評価の公表(年間の教育活動に対する評価)A・B・C・Dの4段階で示す。

- ・A・B・C・Dの基準は、肯定的な評価が75%以上を「A」、50%以上75%未満を「B」、25%以上50%未満を「C」、25%未満を「D」とする。
- ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は学校関係者(保護者・近隣小学校・地域)・保護者アンケートによる評価。

平成30年度 比叡山中学校 学校評価

平成30年度 重点目標

- 1) 中高一貫教育を進める中で「掃除・挨拶」を徹底し、「朝礼」の充実を図り校訓の具現につとめ、合わせて道徳的素養を身につけさせる。
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、学習習慣づくりをサポートし、自ら学習しようとする力を育てる。
- 3) 日々のホームルーム活動・部活動、体験学習等を通じて、生徒のコミュニケーション能力を育てるとともに、自主自立・自律を促す。
- 4) 「部活動に係る活動方針」を策定し、その適切な運営をはかる。
- 5) 学校図書教育の充実をはかり、その発信力を高める。授業と図書室の接点をはかる。
- 6) 特別支援教育の視点を共有しつつ、生徒・教師の人権意識の向上をはかる。人と人との絆を深め、差別やいじめ・体罰を許さない学校づくりにつとめる。
- 7) 懇談会の充実や学年通信を通じて、保護者との連携をはかる。
- 8) 個々の教員及び教員集団としての資質・能力・指導力の向上をはかる。A L (アクティブラーニング)の推進やICT教育の研究と展開、グローバル教育の充実。
- 9) 中高同一敷地に向けて、新しい学校づくりへの体制整備を進める。
- 10) 積極的な入試広報活動につとめる。

領域	評価項目	中間評価	年度末評価	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	・学校の教育方針や教育目標、教育活動について理解が得られるように説明している。	A		
	・学校の教育方針や教育目標が実現できるよう具体的な取り組みを進めている。	B		
2 学習指導	・基礎学力充実のため、学習習慣を身につけて、自ら学習する力を育てている。	A		
	・家庭学習の習慣を身につける指導を行っている。	A		
3 生徒指導	・掃除・挨拶を中心に、基本的な生活習慣の確立に向けた効果的な指導に努めている。	A		
	・規則や規律を守る指導が適切に行われ、社会の一員としての意識を高める取り組みができています。	A		
4 進路指導	・6年間を見通した個々の能力・資質の伸長につながる進路指導を系統的に行っている。	A		
	・進路に関する情報や資料の収集、およびそれらの提供が適切に行われている。	A		
5 特別活動	・部活動の活性化を図るとともに自主・自律を促し、心身ともに成長できるように指導をしている。	A		
	・体育祭・文化祭をはじめ、生徒会活動やHR活動が活発に行われている。	A		
6 学校図書室	・生徒に必要な本や資料を提供し、図書室の利用を促進するように努めている。	A		
	・図書のおもしろさ、大切さに気づかせる指導に努めている。	A		
7 保健・安全指導	・日常の健康観察に努めるとともに、病気や怪我に対し適切な処置ができています。	A		
	・保健室だよりなどの情報提供により、健康・安全に対する意識の向上に努めている。	A		
8 人権教育	・個々の生徒が互いの人権を尊重し、「いじめ」のない集団づくりに努めている。	A		
	・校内人権デーなどを通して、生徒の人権意識を高める指導に努めている。	A		
9 環境教育	・環境について考えさせ、リサイクル運動やペットボトル・パックの後始末をしっかりとさせる指導を行っている。	A		
	・清掃活動に意欲的に取り組み、トイレや教室を美しく保つ指導を行っている。	A		
10 事務・管理	・教育活動に必要な備品、消耗品についての整備がなされている。	A		
	・個人情報の管理を含め、文書管理を適切に行っている。	A		
11 その他 学校の取り組み	・朝礼及び訓話を通じ、生徒の精神的な成長を促す取り組みが行えている。	A		
	・クラス担任や学年主任が中心になって、保護者と連携がとれている。	A		
	・学校生活の様々な場面で、いじめの防止および早期発見のための取り組みが適切に行われている。	A		
	・教育相談体制が整備され、個々の事例に対して適切に対応できている。	A		
	・ホームページ等を活用し、教育活動・学校案内についての情報発信に努めている。	A		

7月 学校目標に基づいた評価項目の公表
 評価表の見方 10月 中間評価の公表(9月までの教育活動に対する中間評価)A・B・C・Dの4段階で示す。
 3月 総合評価の公表(年間の教育活動に対する評価)A・B・C・Dの4段階で示す。

・A・B・C・Dの基準は、肯定的な評価が75%以上を「A」、50%以上75%未満を「B」、25%以上50%未満を「C」、25%未満を「D」とする。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は学校関係者(保護者・近隣小学校・地域)・保護者アンケートによる評価。

平成30年度 比叡山中学校 学校評価

平成30年度 重点目標

- 1) 中高一貫教育を進める中で「掃除・挨拶」を徹底し、「朝礼」の充実を図り校訓の具現につとめ、合わせて道徳的素養を身につけさせる。
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、学習習慣づくりをサポートし、自ら学習しようとする力を育てる。
- 3) 日々のホームルーム活動・部活動、体験学習等を通じて、生徒のコミュニケーション能力を育てるとともに、自主自立・自律を促す。
- 4) 「部活動に係る活動方針」を策定し、その適切な運営をはかる。
- 5) 学校図書教育の充実をはかり、その発信力を高める。授業と図書室の接点をはかる。
- 6) 特別支援教育の視点を共有しつつ、生徒・教師の人権意識の向上をはかる。人と人との絆を深め、差別やいじめ・体罰を許さない学校づくりにつとめる。
- 7) 懇談会の充実や学年通信を通じて、保護者との連携をはかる。
- 8) 個々の教員及び教員集団としての資質・能力・指導力の向上をはかる。A L (アクティブラーニング) の推進やICT教育の研究と展開、グローバル教育の充実。
- 9) 中高同一敷地に向けて、新しい学校づくりへの体制整備を進める。
- 10) 積極的な入試広報活動につとめる。

領域	評価項目	中間評価	年度末評価	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	・学校の教育方針や教育目標、教育活動について理解が得られるように説明している。			
	・学校の教育方針や教育目標が実現できるよう具体的な取り組みを進めている。			
2 学習指導	・基礎学力充実のため、学習習慣を身につけて、自ら学習する力を育てている。			
	・家庭学習の習慣を身につける指導を行っている。			
3 生徒指導	・掃除・挨拶を中心に、基本的な生活習慣の確立に向けた効果的な指導に努めている。			
	・規則や規律を守る指導が適切に行われ、社会の一員としての意識を高める取り組みができています。			
4 進路指導	・6年間を見通した個々の能力・資質の伸長につながる進路指導を系統的に行っている。			
	・進路に関する情報や資料の収集、およびそれらの提供が適切に行われている。			
5 特別活動	・部活動の活性化を図るとともに自主・自律を促し、心身ともに成長できるように指導をしている。			
	・体育祭・文化祭をはじめ、生徒会活動やHR活動が活発に行われている。			
6 学校図書室	・生徒に必要な本や資料を提供し、図書室の利用を促進するように努めている。			
	・図書のおもしろさ、大切さに気づかせる指導に努めている。			
7 保健・安全指導	・日常の健康観察に努めるとともに、病気や怪我に対し適切な処置ができています。			
	・保健室だよりなどの情報提供により、健康・安全に対する意識の向上に努めている。			
8 人権教育	・個々の生徒が互いの人権を尊重し、「いじめ」のない集団づくりに努めている。			
	・校内人権デーなどを通して、生徒の人権意識を高める指導に努めている。			
9 環境教育	・環境について考えさせ、リサイクル運動やペットボトル・パックの後始末をしっかりとさせる指導を行っている。			
	・清掃活動に意欲的に取り組み、トイレや教室を美しく保つ指導を行っている。			
10 事務・管理	・教育活動に必要な備品、消耗品についての整備がなされている。			
	・個人情報の管理を含め、文書管理を適切に行っている。			
11 その他 学校の取り組み	・朝礼及び訓話を通じ、生徒の精神的な成長を促す取り組みが行えている。			
	・クラス担任や学年主任が中心になって、保護者と連携がとれている。			
	・学校生活の様々な場面で、いじめの防止および早期発見のための取り組みが適切に行われている。			
	・教育相談体制が整備され、個々の事例に対して適切に対応できている。			
	・ホームページ等を活用し、教育活動・学校案内についての情報発信に努めている。			

7月 学校目標に基づいた評価項目の公表

評価表の見方 10月 中間評価の公表(9月までの教育活動に対する中間評価)A・B・C・Dの4段階で示す。

3月 総合評価の公表(年間の教育活動に対する評価)A・B・C・Dの4段階で示す。

・A・B・C・Dの基準は、肯定的な評価が75%以上を「A」、50%以上75%未満を「B」、25%以上50%未満を「C」、25%未満を「D」とする。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は学校関係者(保護者・近隣小学校・地域)・保護者アンケートによる評価。